

■■ INDEX ■■

■■ 2020年8月:特集レポートダイジェスト ■■

特集①

首都圏『2020年版:住みたい街(駅)』調査

P.1～23

～在宅勤務の拡大により『通勤時間・駅距離の許容範囲』は変わるのか?～

- 【1】 2020年版首都圏:『住みたい街(駅)』 総合ランキング
- 【2】 在宅勤務の拡大による『通勤時間・駅距離の許容範囲』の変化
(勤務地×居住地×世帯の働き方別分析)

[TOPICS]

在宅勤務の拡大により、検討エリアの拡がり予測される街(駅)

- ・都心主要駅へ電車で40分程度・50分超の街(駅)とは?
- ・在宅勤務が拡大した場合の、住みたい街(駅)の条件
- ・「新幹線通勤可能エリア」への移住について

特集②

地方都市研究 vol.5

P.1～19

～最近の地方圏新築マンションマーケットの状況とトピックス～

- 【1】 地方圏の新築分譲マンションマーケット (2019年の状況)
- 【2】 マーケットトピックス
 - [トピックス①] 地方圏の再開発及びタワー物件の動向
 - [トピックス②] 地方圏(中核市以下)の販売好調事例
 - [トピックス③] 供給事業主の動向

～次号(2020年9月)の予定～

◆特集レポート

(仮)秋商戦のマーケット動向/お客様動向と好調物件事例

特集① 首都圏:『2020年版:住みたい街(駅)』調査

～在宅勤務の拡大で『通勤時間・駅距離の許容範囲』は変わるのか?～

「2020年版:住みたい街ランキング(首都圏)」をみると、“都心へのアクセスの良さ”や“商業施設の充実”等を重視する傾向は変わらないものの、コロナや自然災害の影響により、「密度の高い街を避けたい」「水害の心配がない所が良い」などの声が聞かれ、“街や住環境”等に関する要素の重視度が高まっている様子が窺えました。

本レポートでは、そうした変化が窺える中の街の評価に関し、『通勤時間や駅距離』等に注目。コロナ禍により急速に普及した「在宅勤務」の影響について、『通勤時間・駅距離の許容度、許容範囲』を、[勤務地×居住地×世帯の就業状況]によりターゲット別に分析。「ターゲット別での影響度」や「検討エリアとして需要が高まるエリア」について考えました。

[TOPICS]

- ◇在宅勤務の拡大によって、検討エリアの拡がり予測される街(駅)とは?
- ◇在宅勤務になったら住みたい街(駅)の条件とは?
- ◇「新幹線通勤可能なエリア」への移住について

特集② 地方都市研究 vol.5

近年、二大都市圏において新築マンションの供給に減少傾向がみられる中、地方圏(二大都市圏除く)においての供給は、都市圏程の減少はみられず、ほぼ横ばい～微増と安定的。

本レポートでは「地方都市研究:第5弾」として、「2019年のマーケット状況」と、「マーケットトピックス(近年増加する再開発事業、供給事業主の変化など)」について、まとめました。

[調査項目/トピックス]

- ・地方圏の再開発及びタワー物件の動向
- ・地方圏(中核市以下)の販売好調事例
- ・供給事業主の動向
- など